

=====

GCOE NewsLetter

[No.42 2011/3/29]

-----

2011年度第1回グローバルCOEプログラム大学院説明会について

2011年度第1回大学院学生海外派遣事業について

次回のオープンレクチャーについて

gCOE講演会の中止のお知らせ

2010年度第2回gCOE論文賞の審査結果

「日本学術振興会 育志賞」を受賞

2010年度第2回大学院生海外派遣の調査報告

gCOE講演会の要約

グローバルCOE研究員ブリーフィング要約

就職のお知らせ

=====

---

■ 2011年度第1回グローバルCOEプログラム大学院説明会について

---

2011年度のグローバルCOEの活動内容や公募事業について説明会を行います。

「大学院学生海外派遣事業」、「グローバルCOE論文賞」、「グローバルCOE授業科目」等が説明される予定です。皆さんの参加をお待ちしています。

日時：2011年4月7日（木）15時00分～

場所：文学部講義棟237室

---

■ 2011年度第1回大学院学生海外派遣事業について

---

課程博士論文の執筆を最終的な目的として、論文執筆に必要な海外での調査をサポートするのが大学院学生海外派遣事業です。

募集は年に2回しています。受付期間内に計画書を作成して応募してください。

皆さんの応募をお待ちしています。

募集人員：若干名

受付期間：2011年4月25日(月)～5月6日(金)16時半必着

募集要領はグローバル COE の Web ページに掲載しています。

<http://www.gcoe.lit.nagoya-u.ac.jp/education/education03/>

---

#### ■ 次回のオープンレクチャー

---

2011 年 4 月 13 日 (水) 18:00～

名古屋国際センタービル 15 階 グローバル COE オフィスにて

講演者：宮地 朝子 准教授 (名古屋大学大学院文学研究科・日本語学)

題目：『山田孝雄「日本文法論」のテキスト布置』

---

#### ■ gCOE 講演会の中止のお知らせ

---

3 月 24 日に開催が予定していたアンドレ・ヴォシェ博士 (前ローマ・フランス  
学院長、フランス学士院会員) 講演会は、このたびの東北地方太平洋沖地震の  
影響で中止となりました。

---

#### ■ 2010 年度第 2 回 gCOE 論文賞の審査結果

---

受賞者：玉田沙織

論文タイトル：Formation of a Commentary in Nineteenth Century Japan:

Motoori Scholar Nakayama Umashi's Approach to *Gosen Wakashū*

本論文は、本居宣長から中山美石へとつながる国文学研究が、どのように進展していったかを、『後撰和歌集新抄』の 4 つのテキストを事例として取り上げながら考察し、その進展に民俗学重視の傾向を論証しており、19 世紀中葉の国文学研究を対象とした学説史研究である。

論者は、中山美石の『後撰和歌集新抄』の編纂過程を追うにあたって、国内で閲覧可能な文献に満足する事なく、アメリカ・カリフォルニア大学バークレー校附属の図書館にまで足を運んで文献を調査し、美石の文献学的な本文批判の厳密さを確認する。その上で、文献学的アプローチ以上に特徴的な方法として、美石が民俗学的知見を『後撰和歌集新抄』の編纂に活用している点を指摘する。その上で、『呼子鳥考』に論拠を見いだしつつ、美石の国文学研究における民俗学への美石の傾倒が、彼独自の信念に貫かれたものであったことを主

張している。

論文のテーマになっている、中山美石における民俗学重視の姿勢自体は、美石の門流の祖である本居宣長の民俗学への関心を考えると、完全な独創と言えるわけではない。また、資料の扱いについても、対象とした4つの版を丹念に比較検討するなど、少なくとも本論の論証の過程においては、美石の文献学的アプローチの特徴を文献学的な読みを行使して、より多くの実例に則した論述が望まれるべきところでもある。

しかし、新たな資料を用い、それらをもとに美石の民俗学的傾向を論述しかつ『呼子鳥考』という具体的論証を提示していることは、論全体を英語でまとめたこととあわせて高く評価することができる。今後の継続した調査と研究が強く望まれる。（講評：グローバルCOE 学術委員会）

---

#### ■ 「日本学術振興会 育志賞」を受賞

---

受賞者：市川 彰

研究課題：「メソアメリカ古典期社会の形成過程に関する考古学的研究」

本研究科考古学研究室に所属する市川彰さんが、「日本学術振興会 育志賞」を受賞しました。

「日本学術振興会 育志賞」は、「将来、我が国の学術研究の発展に寄与することが期待される優秀な大学院博士課程学生を顕彰することで、その勉学及び研究意欲を高め、若手研究者の養成を図ることを目的」として本年度より創設された賞です。

市川さんの研究は、本GCOEプログラムの平成22年度大学院学生海外派遣事業の支援研究計画としても採択されました。

---

#### ■ 2010年度第2回大学院生海外派遣の調査報告

---

市川 彰さん（考古学）の調査報告を下記に掲載します。

「メソアメリカ考古学史再検討のための基礎的研究」

2011年2月2日から3月20日までメキシコ、グアテマラ、エルサルバドルに滞在し、メソアメリカ考古学史の再検討を目的とし、欧米以外のメソアメリカ考古学研究者の調査研究に関連する文献や情報の収集、遺跡踏査をおこなった。

メソアメリカ考古学研究は欧米人研究者を中心にこれまですすめられてきた。現在一般的に知られているメソアメリカの歴史や文化は欧米人研究者の視点を中心に再構成されたといっても過言ではない。一方でメキシコやグアテマラ、エルサルバドルなど多くの現地人研究者による調査研究の成果は十分に評価されているとはいいがたい状況にある。そこで、本研究ではこれまで注視されてこなかった現地人研究者の調査研究に焦点をあて、それらの学術的意義を抽出しメソアメリカ考古学史を再検討することを目的とした。

調査を通じて、特にメソアメリカ考古学において長い歴史を有するメキシコではメキシコ国立自治大学や国立人類学歴史学研究所に赴き、貴重な発掘調査報告書をはじめ近年の調査研究をまとめた論考などにあたることができたことは有益であった。グアテマラやエルサルバドルでは現地人研究者のこれまでの調査成果や最新の研究動向などの情報および文献収集をはじめいくつかの遺跡踏査もおこない、今後の野外調査の方針を考えるうえで貴重な情報を得ることができた。

また、日本におけるメソアメリカ考古学の第一人者である故大井邦明氏ゆかりの遺跡であるテオテナンゴ遺跡（メキシコ）を訪問する機会をえた。作業員や関係者の言説から大井氏が同遺跡の調査を通じて現地に与えた影響や学問的功績などを肌で感じることは幸運であった。

今回の調査で得られた資料と知見をもとにメソアメリカ考古学史を再検討し、現地人研究者による調査研究の学術的意義の創出と、メソアメリカ考古学における今後の課題と展望について検討していきたい。

---

## ■ gCOE 講演会の要約

---

講演者：ルチア・ドルチェ博士（ロンドン大学准教授・SOAS 日本宗教研究センター所長）

題目："Ritual Embryology in the Japanese Tantric Tradition:  
Another Mediaeval Soteriological Shift?"

「密教における儀礼的胎生学—もう一つの中世救済論」

日時：2011年2月16日（水）17時00分～18時30分

場所：文学研究科 127 講義室

A variety of Japanese mediaeval ritual texts produced in Tantric contexts include cryptic "embryonic diagrams" that describe the actions by which a Tantric practitioner attains perfect identity with the Buddha as the embryological growth of a foetus. These visual

narratives draw from Indian medical knowledge and from classical Chinese notions of *yin-yang* and *wuxing*, and re-read these systems in terms of Tantric doctrine. All seem to emphasise the moment of sexual intercourse that starts the reproductive process, and the construction of a perfect body that yet maintains the characteristic of a biological body. Probably because of such sexual overtones, most of these documents have so far remained unexplored in Japanese temple archives, and regarded as heretical and marginal. Yet the circulation of these diagrams across lineages suggests that the embryogenetic discourse represented a major soteriological model in medieval hermeneutics, one that firmly situated the seeds of transformation in the origin of the human body. This paper explores two visual conceptualisations of the body: the geometric patterns of the five-stage foetal gestation (*tainai goi*) and the organic body-mandala based on the notion of five organs (*gozô mandala*). The paper will discuss this imagery in relation to other charts of bodily buddhahood as they appear in a controversial document recently discovered in the archives of a Ninnaji sub-temple, titled *Gochizô hishō*, and attempt a comparison with similar contemporary documents produced by other lineages.

---

■ グローバル COE 研究員ブリーフィング要約

---

第 30 回ブリーフィング (2011 年 2 月 24 日)

谷部 真吾 「町を浄化する祭り—磐田市見付の祇園祭と裸祭—」

静岡県磐田市見付地区には、国指定重要無形民俗文化財の見付天神裸祭が伝承されている。地元の人々によると、この祭りの知名度は低いというが、研究論文や報告書の類に目を転じると、さすがに国指定の文化財だけあって、これまでに少なからぬ数の刊行物が公にされている。しかし、見付には、地区全体で担われている祭りがもう 1 つある。それは祇園祭である。この見付の祇園祭も、裸祭同様、一般にはほとんど知られていないが、一部の芸能史研究者たちからするとよく知られた祭りである。だが、祇園祭に関する研究者の注目は、この祭りの一側面——「舞車 (神事)」と呼ばれる行事——のみに集中しており、この祭りの全体像を描くことに関心が向けられることはほとんどなかった。また、これら 2 つの祭りは、双方とも見付地区全体の行事であるにも関わらず、これまで個別に論じられることはあっても、両者を関連づけて考えるような研究はなされてこなかった。そうした状況を踏まえ、本発表では見付の祇園祭と裸祭の諸行事を分析し、これら 2 つの祭りの意味や共通する特徴について考察

を行った。また、最後に、そのような特徴がいったい何に由来するのかについても、ごく簡単にではあるが、指摘した。

---

■ 就職のお知らせ

---

グローバル COE 研究員 3 名のアカデミック・ポストへの就職が決まりましたのでお知らせします。

小澤実さん（西洋史学）：立教大学（准教授）  
杉山奈生子さん（美学美術史学）：愛知産業大学（准教授）  
谷部真吾さん（比較人文学）：名古屋大学（助教）

それぞれ 2011 年 3 月 31 日をもって退職し、2011 年 4 月 1 日より着任します。お三方の今後のより一層のご活躍を祈念いたします。

次回のメール版 NewsLetter の発行は 2011 年 4 月下旬 を予定しています。

.....  
GCOE 「テキスト布置の解釈学的研究と教育」  
Hermeneutic Study and Education of Textual Configuration  
<http://www.gcoe.lit.nagoya-u.ac.jp/>

---

NewsLetter No.42

発行：GCOE編集部  
編集担当：平野克典

Copyright(C) 2011 NAGOYA UNIVERSITY, GRADUATE SCHOOL OF LETTERS

.....